

## 2 水道とわたしたちの暮らし

水道が使われるようになる前の三島村の人びとは、いど水やわき水をくんで生活に使っていました。

昔は、くんだ水をタンゴやバケツに入れて、てんびんぼうでかついで運んでいました。近くにいど水やわき水のないところでは、遠くまで何回も水くみに行かなければなりませんでした。また、だんだんの急な坂をのぼったりおりたりして運ぶなど、ふべんな生活でした。水くみは女の人の仕事でしたが、忙しくなると子どもたちも手伝うなど、大変な仕事でした。

そこで、みんなは、いつでも水が使えるように水道がほしいという願いを持っていました。そして、昭和36年12月に大里、昭和37年3月に竹島、昭和39年3月に硫黄島、昭和40年9月に片泊に簡易水道ができました。そのおかげで、今では、島のほとんどの家に水道が引かれ、いつでもきれいな水が使えるようになって、生活が大変便利になりました。

今の水道は、わき水や川の水などを、  
揚水ポンプようすいで配水タンクはいすいにためて、しょうどくしてからきれいな水をそれぞれの家に送るしくみになっています。竹島や硫黄島では、川が少ないために地下水をポンプでくみ上げて使っています。また、黒島では日暮川ひぐらしにダムを作って、ためた水を使っています。水道の水は、わたしたちの家だけではなく、学校や出張所、ふれあいセンター、また、牛を飼ったり、作物をさい



日暮川ひぐらしのダム

ばいするときなど、いろいろなところで利用されています。そして、使う水の量も毎年増えていっています。

三島村では、いつでもきれいな水を利用できるように、もっと水道施設をよくしていくための努力をしています。わた

したちは、生活にかかすことのできない大事な水を、むだ使いしないように心がけていくことが大切です。



高速ろ過装置

### 水のしまつ

鹿児島市などのたくさんげすいしよりじょうの下水が流れる所には「下水処理場」があります。そこでは、水の中のごみをしずめたり、薬を入れたりして、きれいにしていきます。きれいになった水は最後に川や海に流すことができます。下水処理場では流される水のごみ具合をしっかりとけんさしています。

このようにわたしたちが、ふだんにげなく使った水の始末についてもいろいろな工夫や施設が必要なことがわかります。

### 水道のことをしらべましょう

- ・ 水は、わたしたちの生活にとって、なくてはならないものです。わたしたちが、学校や家庭で使っている水は、どこから、どのようにして送られてくるか、調べてみましょう。
- ・ あなたの地区では使った水はどうなっているか調べてみましょう。